

久留米工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	リベラルアーツ特論2 (経済学)	
科目基礎情報							
科目番号	4S21			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	制御情報工学科			対象学年	4		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	テキスト: 松尾 匡、橋本 貴彦 『これからのマルクス経済学入門』 (筑摩選書) 2016年						
担当教員	藍澤 光晴						
到達目標							
①経済学とはどのような学問かを理解する。 ②マクロ・ミクロ経済学の基本的な考え方を理解する。 ③経済現象を経済学的に把握する。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	マルクス経済学の概念を理解し、資本主義経済を説明できる。			マルクス経済学の基本概念を理解できている。		マルクス経済学の基本概念を理解できていない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	昨年度までは、いわゆる「近代経済学」の基本概念についての学んできた。そこで本年度の本講義では、マルクス経済学の基本的な考え方を学びます。マルクス経済学の基本的な見方・考え方を修得して、資本主義経済の本質を理解することを目的とします。						
授業の進め方・方法	講義は、基本的に受講生がレジュメを作成し、発表する。発表者以外の受講者には講義中に発言を必ず求める。議論に参加しない受講者は不合格となる可能性がある。成績評価は、発表 (50%)、議論への参加 (20%)、レポート (30%) の割合で算出する。60点以上が合格となる。なお再試は行わない。						
注意点	成績評価はレポートによる。レポートは、マルクス経済学の基本的な概念を論述したうえで、その矛盾を説得的に説明すること。なお基本的な概念は以下の通りである。「史的唯物観」、「階級」、「労働疎外」、「労働価値説」などである。						
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	イントロダクション				
		2週	階級と所有①			階級と所有の関係について理解できる	
		3週	階級と所有②			同上	
		4週	疎外論と唯物史観①			労働疎外について理解できる	
		5週	疎外論と唯物史観②			唯物史観の公式を説明できる	
		6週	疎外論と唯物史観③			労働疎外を唯物史観のなかで把握できる	
		7週	投下労働価値概念の意義①			労働価値説の基本概念について説明できる	
		8週	投下労働価値概念の意義②			同上	
	4thQ	9週	投下労働価値概念の意義③			剰余価値について理解できる	
		10週	投下労働価値概念の意義④			搾取と労働価値説の関係を説明できる	
		11週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する①			数理マルクス経済学の基本を理解できる	
		12週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する②			同上	
		13週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する③			同上	
		14週	マルクス経済学で日本社会を数量分析する④			同上	
		15週	まとめ			マルクス経済学を体系的に理解できる	
		16週					
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	50	0	20	0	30	100
基礎的能力	0	50	0	20	0	30	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0